

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施設名	足利市民プラザ(あしかがフラワーパークプラザ)	
内定額	11,242	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		342	342
年間事業本数（※1）	主催事業	43	45
	公演事業	29	31
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	人材養成事業	6	5
	（内、本助成対象事業本数）	3	4
	普及啓発事業	8	9
	（内、本助成対象事業本数）	0	2
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	332	330
	ホール名： 文化ホール 座席数： 826	143	136
	ホール名： 小ホール 座席数： 200	189	194
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	39,664	41,178
	公演事業	26,029	27,430
	人材養成事業	6,455	6,082
	普及啓発事業	7,180	7,666
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	15,053	16,096
	その他 内容： 共催・提携事業	4,544	6,198
	計	59,261	63,472
施設の利用率(%)		74.3%	77.4%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	23	57	26,029	65.0%	6	13	2	2			
	共催・提携公演(※2)	6	6	4,544	81.0%	1	4					1
	貸館公演(※3)	38	38	15,053	50.0%	0	21	6	5	2	0	4
	計	67	101	45,626								
令和6年度	主催公演(※1)	31	48	27,477	69.3%	9	17		2		3	
	共催・提携公演(※2)	11	11	6,198	63.8%	4	6				1	
	貸館公演(※3)	46	46	16,096	47.9%		28	9	7			2
	計	88	105	49,771								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	足利ミュージカル 第11回定期公演 アート・歴史・文化のまち あしかが～多彩な芸術家 田崎草雲ものがたり～	目標値	540	76.1%	観客満足度 アンケートの5段階評価で上位2段階	「大変満足した」「満足した」と回答した人が85%以上	「大変満足した」「満足した」と回答した人が94%	有料入場者数は目標値に1割程度下回ったが、観客アンケート結果においては目標としていた満足度を上回る成果をあげた。	
		実績値	522	73.5%					
公-02	足利オペラ・リリカ 第11回定期公演 ガエターノ・ドニゼッティ作曲《愛の妙薬》～大正足利に浪漫の嵐～	目標値	400	69.4%	観客満足度 アンケートの5段階評価で上位2段階	「大変満足した」「満足した」と回答した人が80%以上	「大変満足した」「満足した」と回答した人が89%	有料入場者数は目標値を2割程度下回ったが、観客アンケート結果においては目標としていた満足度を上回る成果をあげた。	
		実績値	350	60.8%					
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	劇場友の会の会員数	前年度会員数(381名)の10%増・・・420名	令和6年度友の会会員数・・・357名 (△63名、達成率85.0%)	・目標としていた会員数に届かず、令和5年度と比較しても24名が減少した。要因として、オンラインチケットサービスの運用を開始したことがあげられる。オンラインでの予約を優先したことで、友の会の会員数は減少したが、オンラインの登録会員と合わせると97名増加している(オンライン登録会員数160名 3/31時点)。今後は友の会会員とともに、オンライン会員を増やす取り組みを実施していきたい。		
人材養成事業	専門人材育成事業への応募者数 (定員充足度)	・継続事業においては、前年度を超える応募者数 足利ユースオーケストラ ... 43名 足利ミュージカル研究科 ... 43名 足利オペラ・リリカ研究科 ... 5名 ・新規事業においては、定員数 シニア劇団「燦SAN」～ココロもカラダもすこやかプロジェクト～ ...15名	令和6年度人材養成事業の応募者数 足利ユースオーケストラ 47名(＋4名、達成率109%) 足利ミュージカル研究科 38名(△5名、達成率88%) 足利オペラ・リリカ研究科 8名(＋3名、達成率160%) シニア劇団「燦SAN」 ～ココロもカラダもすこやかプロジェクト～ 14名(△1人、達成率93%)	・人材養成事業のうち足利オペラ・リリカ研究科と足利ユースオーケストラは、目標としていた「前年度を超える応募者数」に達することができた。一方で、足利ミュージカル研究科とシニア劇団「燦SAN」は目標値に達することができなかった。目標には届かなかったが、足利ミュージカル研究科については定員30名を超えており、シニア劇団「燦SAN」についても新規事業でありながら定員15名に近い応募があった。令和7年度に向けては、広報活動に力を入れ、応募人数の増加に努めたい。		
普及啓発事業	参加者の反応	地域の芸術団体による～0歳も一緒に！はじめてコンサート～のアンケート回答者の70%以上が「また来たい」と回答	アンケート回答者で「また来たい」と回答した割合 100%(回答数18件)	・目標としていた「アンケート回答者の70%以上から「また来たい」と回答」を達成することができた。しかし入場者数に対してアンケートの回答率が低い(12.1%)ため、令和7年度に向けて回答数を増やす工夫を実施していきたい。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・当館には専属の芸術団体「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」「足利カンマーオーケスター」があり、中央で活躍している芸術家と地域の人々が10年以上にわたって共に活動している。年1回の定期公演を中心に未就学児向けのコンサートや福祉施設でのアウトリーチなど幅広い世代に向けた事業を展開している。 また専属芸術団体の団員は、「足利ユースオーケストラ」や専属芸術団体の養成機関として設けている「足利ミュージカル研究科」「足利オペラ・リリカ研究科」の講師・指導を務めており、次世代の文化芸術を担う子どもたちの育成にも携わっている。 ・上述した専属芸術団体に加え、附属芸術団体としてシニア劇団「燦SAN」(人-04)があり、地域のシニア世代の「第2の人生の生きがいづくりの場・コミュニティの場」として年1回の定期公演を中心に活動している。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
サポーター数の増加	・足利ユースオーケストラ 30名 ・足利ミュージカル研究科 80名 ・足利オペラ・リリカ研究科 26名	・足利ユースオーケストラ 32名(+2名、達成率107%) ・足利ミュージカル研究科 61名(△19名、達成率76%) ・足利オペラ・リリカ研究科 24名(△2名、達成率92%)	・足利ユースオーケストラは、目標としていた人数を達成することができた。一方で足利ミュージカル研究科、足利オペラ・リリカ研究科については、目標としていた人数に届かなかった。令和7年度に向けては、定期公演だけでなくアウトリーチ等の活動を積極的に実施し、多くの方に支持していただけるよう取り組んでいきたい。		
貸館利用者の満足度	80%以上が「満足」「ほぼ満足」と回答	「満足」「ほぼ満足」と回答した割合 94%(回答者数1,155件)	・目標としていた数値を大きく上回ることができた。引き続き利用者に満足をいただけるよう取り組んでいきたい。また自由記述欄では設備等の老朽化に関する記述があるため、早期発見、早期対処ができるよう日々の点検を強化していく。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・当館の専属芸術団体「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」の定期公演において、足利市の文化資源を活用した公演を実施した。足利ミュージカルは幕末の戦火から親子で足利を守った「田崎草雲」を題材とした公演(公-01)、足利オペラ・リリカは「愛の妙薬」を大正時代の足利に翻案し、加えて市内の着付教室の協力のもと、舞台美術や衣裳に足利銘仙(足利で生産された絹を素材とした先染め平織物)を用いた公演(公-02)を上演した。 足利ミュージカルの公演では市内にある草雲の描いた絵画や、草雲の愛用した遺品を収集、保存し、一般に公開をしている草雲美術館と連携し、本公演のチケット半券で草雲美術館の入場料が割引される半券サービスを実施した。これは本公演を鑑賞されて持った田崎草雲への興味を一過性のものとせず、また公演に登場した作品を実際に鑑賞する機会を提供するための取り組みである。
・附属芸術団体シニア劇団「燦SAN」は、令和6年度から「演劇の力で、地域の特に高齢者に寄り添う活動をする」を方針に「ココロもカラダもすこやかプロジェクト(人-04)」を立ち上げた。演劇の手法を用いた仲間づくりワークショップで市民(特に一人暮らしする高齢者)の新たな交流の場づくりや市内の高齢者施設でのアウトリーチなど、高齢化が進む足利市の現実を見据えた「燦SAN」の活動方針に沿った事業を展開した。
・「地域の芸術団体による学校連携プログラム(普-1)」の1つであるアウトリーチプログラムは、専属芸術団体を含めた地域の芸術団体が出演し、次代を担う子どもたちに鑑賞だけでなく、楽器やメイクの体験を取り入れ、鑑賞と体験のどちらもできる内容で実施した。 文化芸術に触れ、関心を持った子どもたちが文化芸術を学ぶことができる場として、「足利ユースオーケストラ」や専属芸術団体の養成機関である「足利ミュージカル研究科」「足利オペラ・リリカ研究科」があり、子どもたちに年間をとおして学ぶことのできる場を提供している。
・「地域の芸術団体によるアウトリーチプログラム(普-2)」の1つである0歳から参加できるコンサート(普-02)を実施、未就学児からクラシックやオペラにふれる機会を提供した。また本事業は親子で参加できることから、市民アンケートで「子どもと遊べる場が少ない」などの子どもの環境についての課題にも応えており、地域のニーズを踏まえた事業を実施しているといえる。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
子育て世代に向けた事業参加者数	地域の芸術団体による ～0歳もいっしょに！はじめてコンサート～において前年度を上回る参加者数 ・足利カンマーオーケスター 90人 ・足利オペラ・リリカ 55人	地域の芸術団体による ～0歳もいっしょに！はじめてコンサート～の参加者数 ・足利カンマーオーケスター 169人(+79人、達成率188%) ・足利オペラ・リリカ 101人(+46人、達成率184%)	・足利カンマーオーケスター、足利オペラ・リリカともに、目標としていた「前年度を上回る参加者数」を倍近く上回る(約1.8倍)参加者があった。このような成果を上げられた要因としては、親子で参加しやすい参加方法(ネット予約、チケットレス、当日支払、連絡なしのキャンセル可)やチラシを市内保育所・幼稚園に配布するなど広報に力を入れたことが考えられる。		
アウトリーチの質	小学校演劇ワークショップに参加した子どもたちにアンケート調査を行い、「また参加したい」の回答が75%以上	小学校演劇ワークショップに参加した子どもたちが「また参加したい」と回答した割合75%以上(実施校8校)	・目標としていた数値を達成することができた。しかしアンケート方法が挙手によるものであり、細かい内容を知ることができなかったため、令和7年度は具体的な内容を聞けるよう調査方法を工夫したい。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・当館の施設は、館内エレベーター、障がい者優先駐車スペース、車イスの貸出、車イス用トイレ(オストメイト対応設備付き)、階段の手すり、車イス用客席(6席)を設置、また車寄せからホール入口まで階段のない緩やかな傾斜かつ雨で濡れないようキャノピーを設置している。
・「足利オペラ・リリカ定期公演(公-02)」では原語(伊語)で上演したが、日本人でも親しめるよう日本語字幕を用いた。
・「地域の芸術団体による学校連携プログラム(普-1)」のアウトリーチプログラムでは、特別支援学校の児童・生徒・先生が他の学校と同様のプログラムを望んでいたことから、特別なプログラムとせず障がいの有無に関わらず楽しめる共通の内容として実施した。授業の一環として各学校を会場として無料で実施したことで、移動の負担をかけることなく、経済的状況に関わらず子どもたちに文化芸術にふれる機会を創出した。
・「地域の芸術団体によるアウトリーチプログラム(普-02)」の1つである「0歳もいっしょに！はじめてコンサート」は、季節の曲や曲に合わせて体を動かすなど、親子で楽しめる工夫を凝らしたプログラムで実施した。申込方法は、親子で気軽に参加しやすい方法(ネット・電話予約、チケットレス、当日支払、連絡なしのキャンセル可)とした。 また同プログラムの「アウトリーチコンサート」では上述したアウトリーチプログラム(普-01)同様に、会場に来ることが難しい人々に対して、移動や金銭的な負担をかけることなく文化芸術を感じていただけるよう市内の福祉施設で無料で実施した。 このプログラムは、子どもから高齢者まで様々な年代が参加できる事業を展開しているが、どちらも専属芸術団体「足利カンマーオーケスター」「足利オペラ・リリカ」のメンバーが出演しているため、対象に適したプログラムで幅広い観客に対応している。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

・当館のミッションやビジョンを踏まえた自主事業を展開し、その全ての活動を通して、概ね目標を達成することができた。

・公演事業において当館の専属芸術団体「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」の定期公演では、関係機関と連携・協力ができたことで足利市にゆかりのある人物を題材にした演目（公-01）や衣裳や舞台美術に足利銘仙の活用（公-02）など、足利市としての特色や魅力を活かした公演ができ、公演アンケートの顧客満足度でも高い評価を得た。一方で、集客が今後の課題である。

・人材養成事業においては、足利オペラ・リリカ研究科（人-02）に既存のプロ養成コースに加え、新たに社会人や子ども向けのシニア・ジュニアコースを設けたことで、ミュージカル（人-01）、オペラ（人-02）、楽器（人-03）、演劇（人-04）の4つの分野を学べる環境を整えた。幅広い世代に身近に一流の指導を受けられる場を提供した結果、各人材養成事業とも定員もしくは定員を超える応募があった。

また足利ミュージカル研究科（人-01）は、活動13年目にして初めて研究科生から宝塚音楽学校に合格者を出す実績をあげることができた。地元で生活を送りながらミュージカルを学び、地方でも夢を持ち続け、叶えることのできる場として活動が続けてきた大きな成果といえる。

・普及事業においては、「地域の芸術団体による学校連携プログラム（普-1）」「足利市内学校芸術鑑賞教室（助成対象外）」「地域の芸術団体によるアウトリーチプログラム（普-02）」の3つを中心に実施したことで、次代を担う子どもたち（特に小・中学生）に一度は文化芸術を鑑賞・体験のどちらもできる機会を提供した。

また児童・生徒だけではなく、未就学児から参加できるコンサートや福祉施設でのアウトリーチなども実施し、幅広い世代に対して事業を展開した。

各プログラムとも高い参加率・集客率であるが、より多くの人に文化芸術を感じていただけるよう、不参加校への呼びかけや広報活動を強化して取り組んでいきたい。

・来年度以降もレジデントアーティストを中心に幅広い年代が参加できる事業を継続する一方で、集客・収益といった課題を改善できるよう広報活動を強化して取り組んでいきたい。

・ 所見